

旭川敬老園だより

第 69 号

岡山市北区祇園866
特別養護老人ホーム
発行責任者 森 繁樹
電話(086)275-4349



藤原 勉 様による新年の画 「灯台と富士」 ※原画は受付窓口に飾ってあります。

新年あけましておめでとございます。年末年始には多くのご家族に來園いただき、ありがとうございました。また、昨年十二月十五日に実施された家族会主催の年末大掃除にも多くのご家族のご参加をいただきました。日頃、皆様方のご支援・ご協力に対し、厚く御礼申し上げます。

今年の旭川敬老園のお正月は大きな事故も、また大きく体調を崩される方もなく無事過ごすことができました。今年一年も、出来る限り事故などを起こすことなく利用者の皆様方の安心と安全をお守りできるよう職員一同、心掛けていきたいと思います。

さて、年明け早々政治の状況も混とんとする中、今年はどうのような一年となるのでしょうか。介護保険制度は三年に一度の報酬改定と五年に一度の全面的見直しに法律上義務付けられています。予定としては平成二十四年四月からの新体制スタートに向け、今年の早い段階で新しい仕組みの青写真が出るはずとなっています。今のところ、施設に暮らす利用者の介護サービスのあるかたについて大きな変更があるとは聞いていませんが、少しでも早く明確な方針が出されることを期待しています。

わが国においては今後、さらなる少子・高齢社会が進展し、これまでにない人口減少社会という事態が常態化してきます。安心できる社会保障制度の確立が求められるのはもちろんですが、政府予算も右肩上がりの時代とは異なり、福祉制度もただ拡大一辺倒というのではないでしょう。今後は、これまで以上にご家族や地域の方々のご協力をいただきながら、地域で求められる施設づくり、施設運営に心がけていきたいと思います。

今年一年、引き続きよろしくお願いたします。

いあいらび

園長 森 繁樹

ショートステイ通信

月一回ご利用いただいている内田様。ショートステイにこられ、他の方が塗り絵をしているのを見られ、色鉛筆にて小さいスケッチブックに絵を描かれるようになったとのこと。たった十二色の色鉛筆から鮮やかな花々が生まれてきます。内田様は高等女学校専攻科にて芸術を習われていたとのこと、七十歳ぶりです。」と笑顔で答えてくださいました。また、毎日短歌を作られており、日記代わりに詠まれていたとのこと。「人生何歳になっても勉強です。」というも前向きにいられます。

内田様はご両親が他界されたのち、障害を持たれた妹さんと弟さんを長年介護してこられました。姉さんが当園に入居された後、ご本人もショートステイにこられるようになりました。「三人揃って夏祭りの花火や忘年会と一緒に参加できるとは思いもよらなかったです。」と本当にうれしそうに話してくださいました。三人の絆が交わる場として敬老園をご利用いただいていることは大変光栄であると思います。



「クリスマス 三かいむかえ 三人で たゞたゞかんしゃ しあわせかんしゃ」
「こうえんに イルミネーション キラキラト ブルーギン色 かゞやきならび」

クリスマスプレゼント

十二月三日、神戸海星女学院小学部母の会の皆さんが來園され、かわいい包みに入ったクリスマスプレゼントをすべての入居者の方に配っていただきました。今年はいわいのクリスマスカード、タオル、刺繍の入ったソックスカバー、タオルをこめて作成されているそう、体だけでなく心まで温かくなる、慈愛に満ちたものですね。是非ご愛用いただけたいと思います。



銭太鼓ボランティア

十月十九日、童ノ口銭太鼓グループの皆さんによる銭太鼓・傘踊りの披露がありました。年に数回来園くださり、毎回曲目を増やしたり、衣装を新調されたりと常にバージョンアップをされています。今回は途中でグループリーダーの秦さんによる安来節(どじょうすくい)が飛び出し、コミカルな動きにて入居者の皆さんの笑いをとられていました。



ありがとうございました